

再評価結果（令和4年度事業継続箇所）（原案）

担当課：道路局国道・技術課
担当課長名：長谷川 朋弘

事業名	一般国道58号 <small>よみたん</small> 読谷道路	事業区分	一般国道	事業主体	内閣府 沖縄総合事務局
起終点	自： <small>おきなわけんよみたんそんおやし</small> 沖縄県読谷村親志 至： <small>おきなわけんよみたんそんふるげん</small> 沖縄県読谷村古堅			延長	6.0km
事業概要					
一般国道58号は、沖縄本島西海岸を南北に走る交通の大動脈であり、沖縄本島中南部の人口集中地域や県都那覇市と、沖縄本島北部の観光・リゾート地域及び農山村地域を結ぶ主要幹線道路である。読谷道路は沖縄西海岸道路の一翼を担い、本島北部と中南部を結ぶ主要幹線道路となり、読谷村、嘉手納町の国道58号の交通混雑の緩和はもとより、地域の産業、観光及び地域振興プロジェクトを支援する道路である。					
H13年度事業化		H-年度都市計画決定 (H-年度変更)		H13年度用地着手	
H13年度工事着手					
全体事業費	620億円	事業進捗率 (令和3年3月末時点)	約35%	供用済延長	2.8km
計画交通量	27,700 台/日				
費用対効果 分析結果	B/C	総費用	(残事業)/(事業全体)	総便益	(残事業)/(事業全体)
	(事業全体) 2.6 (残事業) 3.1	289/694億円 (事業費：270/655億円 維持管理費：20/39億円)		884/1838億円 (走行時間短縮便益：790/1646億円 走行経費減少便益：83/126億円 交通事故減少便益：11/66億円)	基準年 令和3年
感度分析の結果					
(事業全体) 交通量変動		B/C = 2.5~3.0 (交通量±10%)		(残事業) B/C = 2.9~3.4 (交通量±10%)	
事業費変動		B/C = 2.6~2.8 (事業費±10%)		B/C = 2.8~3.4 (事業費±10%)	
事業期間変動		B/C = 2.5~2.7 (事業期間±20%)		B/C = 2.8~3.2 (事業期間±20%)	
事業の効果等					
①円滑なモビリティの確保					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現道の損失時間の削減が見込まれる。 ・ 現道の路線バスの利便性向上が期待される。 ・ 那覇空港（第二種空港）へのアクセス性が見込まれる。 					
②物流効率化の支援					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 那覇湾（重要港湾）へのアクセス性が向上。 ・ 読谷村で生産される農林水産品（キク）の流通の利便性が向上する。 					
③都市の再生					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大木土地区画整理事業や大木南土地区画整理事業等の計画との連携が期待される。 					
④国土・地域ネットワークの構築					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域高規格道路に指定されている「沖縄西海岸道路」の一部を形成している。 ・ 那覇市（中心都市）へのアクセス向上が見込まれる。 					
⑤個性ある地域の形成					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 読谷村が推進している「読谷補助飛行場跡地利用実施計画」を支援する。 ・ 読谷村の主要観光地（座喜味城跡）から近郊の代表的な観光地であるアメリカンビレッジまでのアクセス性向上が見込まれる。 					
⑥安全で安心できる暮らしの確保					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 県立中部病院（第3次医療施設）へのアクセス性向上が見込まれる。 					
⑦災害への備え					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄県緊急輸送道路ネットワーク計画における緊急輸送道路に位置付けられている。 					
⑧地球環境の保全					
<ul style="list-style-type: none"> ・ CO2排出量の削減が見込まれる。 					
⑨生活環境の改善・保全					
<ul style="list-style-type: none"> ・ NOx排出量の削減が見込まれる。 					

・SPM排出量の削減が見込まれる。

関係する地方公共団体等の意見

読谷道路は、沖縄本島のハシゴ道路ネットワークにおいて、南北を走る強固な「3本の柱」として位置付けられており、極めて重要な道路と認識しております。

本道路は、一般国道58号現道部における交通渋滞の緩和や沿道環境の改善を図るとともに、地域の活性化、観光支援及び物流の効率化等を目的とする道路であることから、その整備は急務となっております。

以上により、対応方針（原案）のとおり事業継続に同意いたします。

事業評価監視委員会の意見

対応方針（原案）に対して審議を行った結果、「事業継続」で了承された。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成18年に読谷補助飛行場が返還されており、その中心を通過する読谷道路を中心とした基盤整備、土地区画整理事業が進行中。
- ・読谷村の人口、観光入込客数は増加傾向である。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・平成13年度に事業化、用地進捗率約99%、事業進捗率約35%（R3.3末時点）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

周辺の区画整理事業の遅れに伴い、事業の遅れが生じている。今後は全線開通に向けて、鋭意事業の進捗を図る。

施設の構造や工法の変更等

今後も、技術の進展に伴う新技術・新工法の採用検討など、コスト縮減等に努めながら引き続き事業を推進していくこととする。

対応方針（原案）

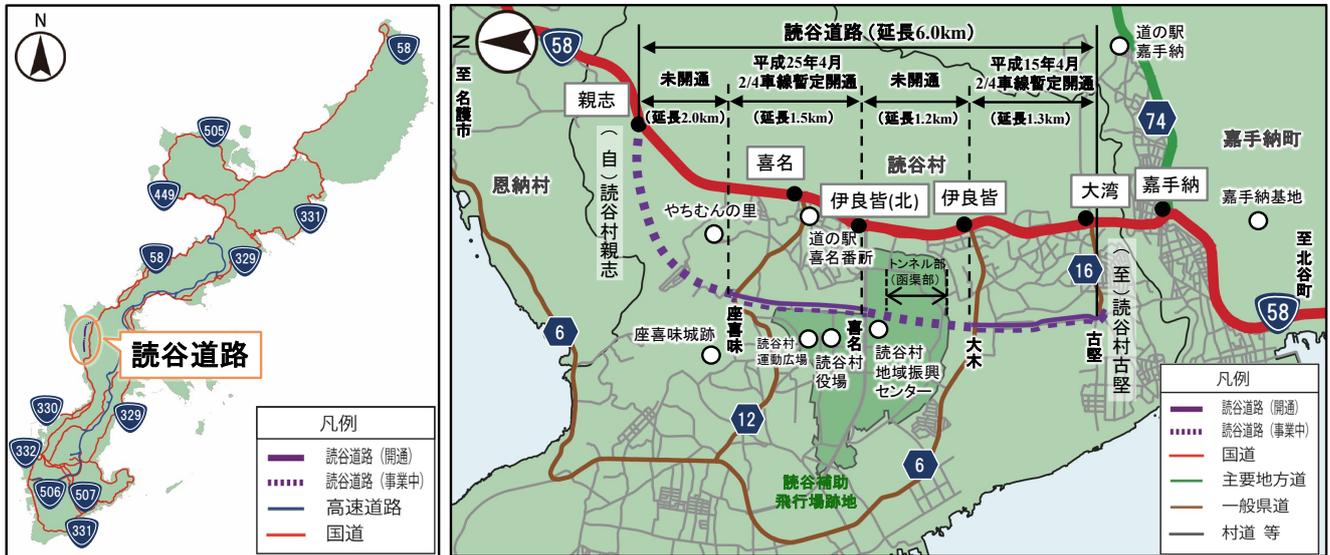
事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図

位置図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。